



第4回校内研究会

平成24年1月19日(木)

■研究テーマ「“学び合い”から理解を深める教室づくり」

<本日のねらい>

- ①「生徒に考えさせる, 気付かせる」ために, 教師の役割(聴く, つなぐ, もどす)のあり方を探る。
- ②授業の工夫改善に努める。
 - ・教師の言葉を減らす。
 - ・教室を活性化させる課題の設定。
 - ・実物を持ち込む。
 - ・適切な作業を取り入れる。
 - ・視聴覚機器(テレビ)の活用。 など

●平成22年度の課題●

- ・教師がしゃべりすぎている。もっと言葉を減らすことが必要。
- ・講義形式の授業に終始せず, 生徒同士の話し合いを増やすこと。
- ・グループ学習の生かし方, 課題の与え方, 学習の考え方など。



<授業を見るポイント>特定のグループに着目して観察してください。

- ①生徒はどこで学んでいたか, いなかったか
- ②教師はどのような働きかけ・工夫をしたか

■日 程

午前中の公開授業(1年所属教師全員)

可能な限り, 教員間で参観する。

校時	学級	教科	授業者	単元名	場所
2	1-1	国語	金澤	慣用句	1年1組
3	1-2	英語	窪田	現在進行形	1年2組
3	2-2	家庭	中寫	お弁当のプレゼンテーション	2年2組
4	1-2・3	市田 伊藤	保健体育	柔道・ダンス	武道場・体育館
4	1-4	社会	武田	縄文文化と弥生文化	1年4組
4	1-5	理科	小幡	物質のすがたと状態変化	第2理科室

13:10~ 帰りの会(全学年), 下校, 部活動なし

13:30~ 5校時1-5 数学科 単元名「平面の図形」 授業者: 中村 いづる

14:20 5校時終了, 下校

14:35~ 全体研修会(於: 視聴覚室)

- ・学校長挨拶 5分 14:35~14:40
- ・実践交流 20分 14:40~15:00
- ・公開授業研究協議 50分 15:00~15:50
- ・指導講話 30分 15:50~16:40

「学びの共同体」スーパーバイザー・倉知雪春先生

- ・謝辞・挨拶 3分 16:40~16:43

■役割分担

司会(大國)

記録(小島・小幡)

会場設定(みんな)

連絡調整接待(上野)

「実践交流」の持ち方について

1. 実践交流のねらい

- (1) 「学び合い」を生かす授業実践について、各教科で取り組んでいる内容を発表・交流し、教科の枠を越えてその成果と課題を共有する。
- (2) 発表者の立場では、自分の実践をあらためて見つめ直す機会とする。また聴き手の立場でも、積極的な姿勢で発表を聴いて、自分の実践を比較し見つめ直す機会とする。
- (3) お互いの実践から学び合うことを通して、教師間の同僚性を高める。

2. 実践交流の内容、方法 今回の担当・・・3年

内 容：「学び合いを生かすヒット授業案」にもとづいて実施した授業について、生徒の反応や得られたこと、課題として残ることなどを発表する。

時間設定：25分（発表10分＋質疑10分＋感想記入5分）

発表者：発表者を4～6人設定する。発表者は各ブースで発表をする。

聴き手：発表者以外は聴き手となる。質問や意見などを交わす。

：1つの発表に対して、質問や感想等を必ず1人1発言を！

：4～6人の発表に対して聴き手の人数がほぼ均等になるよう、その場で調整する。

：学び合い等についての議題もこの中で深める (みんな大人なので協力してくださいね)

3. 時間設定（全体研修会 14：35～16：55の中で）

・実践交流 20分 14:40～15:00(説明10分 質疑10分 その後感想記入)

4. 発表者（以下の先生方をお願いします）



5. 発表者が準備する資料

・まとめレポート（A4用紙1枚、最大でも2枚まで）

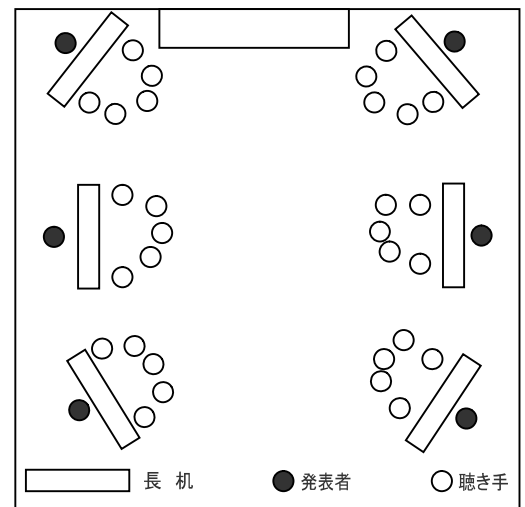
【指導略案】＋【授業の様子、成果と課題、授業を終えての所感、生徒の感想など】を必要に応じて

6. 今後の展望

全員がレポートを提出して下さい。学年で綴ります。



7. 会場イメージ図



大津市立栗津中学校

担当 上野 行き

FAX 077-537-0760

1月19日 校内研究会への参加申込票

学校名	TEL FAX
E-mail	

	参加者氏名	職名	来校予定時刻
1			
2			
3			

※連絡事項
